

2026年4月27日

報道関係各位

富士山麓電気鉄道株式会社
富士急行株式会社

富士急行線 寿駅の行き違い設備が2027年12月に完成

- 2028年3月ダイヤ改正で利用が多い日中は“毎時約3本”体制へ
- 地域利用・訪日外国人双方の利便性が大幅に向上



富士急グループの富士山麓電気鉄道株式会社（本社：山梨県南都留郡富士河口湖町、社長：石井 謙一）は、富士急行の100周年事業の一環として、「寿駅」に新たな線路とホームを設けることで、「行き違い」が可能となる行き違い施設を整備し、2027年12月の完成を目指しております。

富士急行線は大月～河口湖駅間の26.6km、全線単線の鉄道で、途中8駅で上下電車の行き違い（電車交換）を行い運行しています。今回、新たに寿駅を行き違い可能な駅として整備し、沿線のお客様の利便性向上と訪日外国人旅客の増加に対応するとともに、輸送力の強化やダイヤ設定の柔軟性の実現を目指します。

寿駅はこれまでホームが1面の単線駅でしたが、今回の整備で新たな線路と反対側にもホームが設置され、2面2線の駅となります。完成後は寿駅が行き違い可能駅として機能し、富士急行線内の電車増発が可能となります。2028年3月のダイヤ改正では、観光客利用の多い時間帯を中心に、上下各毎時2本が中心だった運行本数を約3本体制へ増やす計画で、利便性や輸送力の大幅な向上が期待されます。

また、ダイヤに余裕が生まれることで、沿線イベント開催時の臨時列車設定や遅延発生時の運行調整が柔軟に行えるようになり、列車の定時性と安定性も向上します。大月駅で接続するJR中央本線の特急列車との乗換え待ち時間も短縮されるため、ご利用のお客様にとっても移動ストレスが軽減されます。

なお、本施設は2026年2月2日に着手し、2027年12月末の完成を予定しています。本件は富士急行の100周年事業と位置付け、富士急行線は今後も観光地への輸送力の強化を図るとともに、地域のお客様の足として、より便利で快適な鉄道を目指してまいります。

寿駅の行き違い設備 概要

1. 実施内容

- (1) 相対式ホーム（行き違い用のホーム）新設（有効長 82m）
- (2) 軌道造成 300m、分岐器（ポイント）2 基および関連軌道設備設置
- (3) 信号設備、ATS（自動列車停止装置）新設、構内通路踏切新設
- (4) 電柱、架線の新設

2. 総事業費用

約 9 億 5 千万円 ※全額自社負担

3. スケジュール（予定）

- (1) 完成予定：2027 年 12 月末
- (2) 試運転開始：2028 年 1 月中旬

※スケジュールは現時点での予定であり、進捗状況等により変更となる場合があります。

本設備の新設により期待される効果

1. 2028 年 3 月ダイヤ改正以降、更なる列車増発が可能に

現在は上下線それぞれ、概ね毎時 2 本の運転ですが、2028 年 3 月（予定）のダイヤ改正では、観光客利用が多い時間帯を中心に運行本数を増やす計画です。

2. 臨時列車運転等の運行の柔軟性が向上

沿線で開催されるイベント等に合わせた臨時列車の運転や、列車の遅延時の運行調整など、従来よりも柔軟な対応が可能となります。

会社概要

社 名：富士山麓電気鉄道株式会社

代 表 者：石井 謙一

設 立：2021 年（令和 3 年）5 月 25 日

所 在 地：山梨県南都留郡富士河口湖町船津 3641 番地

事業内容：鉄道事業、索道事業等

公式 H P：<https://www.fujikyu-railway.jp>



本件に関する報道関係者様からのお問い合わせ先
富士山麓電気鉄道株式会社 鉄道部 TEL：0555-75-2906